



木下けんじ事務所 〒239-0822 横須賀市浦賀5-8-5-1102

TEL(FAX)046-841-6326 携帯電話:090-5303-0828 URL <http://k-kinoshita.jp/>



- 所属会派: 自由民主党
- 所属常任(特別)委員会
  - ・議会運営委員会
  - ・建設常任委員会(委員長)
  - ・廃棄物処理等特別委員会

○横須賀市長選挙の総括

6月28日に実施された、横須賀市長選挙について、蒲谷前市長を応援した陣営の一員として、選挙結果を分析・評価するとともに、今後の市政運営を展望してみたいと思います。

開票結果を再確認しますと、吉田雄人候補68,628票、かばや亮一候補64,147票、ごとう正彦候補23,134票、投票率は45.22%でした。前回(平成17年)の市長選挙と比較すると、蒲谷前市長の得票数は64,545票で今回とほぼ同数、投票率は40.19%で、今回は約5ポイント上がっています。

今回の市長選挙を蒲谷現職市長と吉田若手市議の対立という図式でとらえて、いくつかの特徴を挙げたいと思います。

まず第1にいえることは、政策的には明確な争点のない選挙であったと思います。両候補ともに、財政再建や地域の活性化等々を主張したわけで、その主張した政策には大差はなかったと思います。そこで吉田陣営が意識的に市民にアピールしたのが、世代間の対立を強調すること、そして官僚という言葉をも批判的用語として多用することでした。この選挙戦術はとりもなおさず、政策よりも人物選択を有権者に求める選挙構図であったといえます。

そして社会全体としての閉塞感をことさら強調し、もともとは人物選択を迫るだけの単純な意図を、(二番煎じである)チェンジというスローガンに変えることにより、あたかも政策対立軸があるかのようにみえる図式に変換したものだと思えます。そして、そのような考え方の帰結としての吉田陣営の選挙運動は、街頭活動や大量の印刷物を配布するという、大衆や浮動票を強く意識した手法を採って、扇動的に選挙の流れを形成していったものと思われる。(その結果は、投票率の向上及び蒲谷陣営の得票数が前回とほぼ同数にも表れている)つまり、政策を抜きにして、人物を選択すること、そしてその人物に将来の市政を託すという、一種の賭けのような要素を含む投票行動に成功したものだと考えます。前段で、明確な争点のない選挙であったと述べましたが、本当はその裏に隠された重要な争点があったと考えます。横須賀が他の都市と大きく異なるところは、そこに自衛隊や米軍基地が存在していることです。この基地の存在が意味するところは、横須賀は我が国安全保障の最前線都市であり、国政と市政が直結している側面を有しています。この基地対策について、本来は重要な争点となるべきところを、吉田陣営は意図的と思えるほどに言及が少なく、「基地の存在を現実のものとして受け止め対策を進める」という程度の表現に留めています。若手新市長として、防衛や安全保障分野は、今後の研究課題であると考えているのかも知れませんが、この問題の処理こそ横須賀の首長に特別に求められる識見であると思っています。基地問題という重要な対立軸が、

さしたる争点とならずにこの選挙が戦われたことが、将来の市政運営に禍根を残さないことを願っています。新市政が政策展開を始めるためには、しばらく時間がかかるものと思えます。また、具体的に新政策がいつ打ち出されるのかもわかりません。議会として、市長の提案に対して、個々の案件としての対応が始まると思えます。しかし「木下けんじ」はチェンジよりも安定を優先する政治に軸足を置いて、適切に対処していきたいと考えています。

○平成21年第3回定例会

市長所信表明及び各会派代表質問

9月3日(木)から10月6日(火)の期間、第3回定例会が開会されました。例年、第3回定例会は主として決算案を審議する定例会です。しかし、今年は市長選出後、最初の定例会ということで、冒頭に市長の所信表明及びそれに関する各会派の代表質問(会派に属さない個人質問を含む)が行われました。市長の所信表明及び代表質問を通じて、吉田新市政の(当面の)課題が浮き彫りになったと思えます。

吉田新市長は、6月28日(日)の選挙を経て、7月10日(金)に第35代市長に就任しました。吉田新市長は、選挙運動では「チェンジ」と「官僚文化の打破」をスローガンに掲げ、選挙戦を展開しました。新市長としての所信表明も基本的には選挙戦で訴えた事柄の延長線上の考えを述べるに止まりました。そして印象を害したのは、所信表明の核心が、吉田新市長の政治理念や政治姿勢を主張する観念論であり、施政方針としての現実性に欠けていたことです。(裏面に続く)

木下けんじへの期待・要望・ご意見などをお寄せ下さい。返信FAX 046-841-6326

氏名

連絡先



上:よこすか美術館  
下:新港埠頭



そのため、選挙の際のマニフェストに比べると抽象的、観念的な言辞が多く、具体性に欠けた所信表明であったというのが所見です。(所信表明全文は、横須賀市ホームページで閲覧できます)

そこで、各会派からは、新市長の方針に対して、その不明瞭さ、実現の不確実性に関して、多くの疑問、異論が提示されました。その概要を、(紙面のつごうから)以下に項目のみ列挙しますが、まさに新市政の(当面の)課題ともいえるものです。議員として、市民の幸せを大目標として、市民の視線に立って是々非々の立場で、政策を闘わせたいと思います。

**\*\* 吉田新市政の課題 \*\***

- 1 行財政改革の具体的な目標とその手法
- 2 ハコモノといわれる大型施設の効率的な運営方法
- 3 基地対策・基地問題・在日米軍に対する基本姿勢
- 4 常設型住民投票を含む自治基本条例策定の適否
- 5 「(仮称)水と緑の基本条例」の具体像
- 6 「いのちの基金」の目的と運用方法
- 7 救急医療センターに関する、「移転建て替え」と「既存改修」の是非
- 8 学校運営における、「学校診断」の相関性とその具体的手法
- 9 入札制度改革の具体性
- 10 広報紙駅頭配布の是非



1万mプロムナード

**○政権交代**

8月30日(日)に実施された第45回総選挙は、選挙区、比例区ともに民主党が自民党を圧倒しました。(自民119、公明21、民主308、その他32、合計480議席)

そして9月16日(水)に召集された特別国会で、民主党代表の鳩山由紀夫氏が首相指名選挙で第93代総理大臣に選出されました。ここに、戦後政治を主導してきた自民党政治は終焉を迎え、民主党政権が成立しました。

小選挙区制による二大政党制は、もとより政権交代を可能とすることを前提とした制度ですから、民意を受けて政権交代はあり得ることです。

しかし、政権が交代しても、国政として、変わって良いものと、変わってはならないものがあると思います。

安全保障、国防は国家存立の基本であること、そして外交などは国益の追求を第一義とすることから、変わってはならないものの最たるものであると思います。

民主党政権が標榜する、以下のような基本政策の変更は、わが国の将来を不安定化し、国益を損ねた結果、国家の成立基盤そのものが崩壊する予兆を感じます。

- \* 日米安保—①日米安保の再定義 ②米軍再編への対応 ③地位協定の見直し ④非核三原則の法制化
- \* 同盟関係と国際的安全保障枠組み—①インド洋における補給支援活動の中止 ②東アジア共同体構想 ③北東アジア非核地帯構想

一方、国民の幸福と繁栄を目標とする、社会保障や経済制度は、その時々々の社会情勢に対応して、変化して良いものだと思います。特に、少子高齢化、人口減少が進行するわが国における、年金、医療、雇用などの社会保障政策、そして世界規模での対応が求められる環境対策、経済政策などは時代の要請に合わせて修正する必要があると思います。

しかしそれとて、財源の再配分次第で、その政策の軽重は決まるわけで、財源が保障されない限り、その政策は画餅でしかありません。

新政権は三党(民主、社民、国民新)連立政権のため、必ずしもすべての政策軸が一致しているとは思えません。また、民主党自体も、その内部は右から左まで幅広い思想を持った人たちの集団です。新政権は政権公約(マニフェスト)で掲げた政策の実現を追求することでしょうが、安全保障と財源確保の難問が壁となり、政策に混乱が生じることが予想されます。その場合、その政治のツケは国家、国民が負うわけで、強い不安感、不信感を覚える次第です。総選挙直後の高揚感から早く脱却し、良識ある保守政治の復権が待たれていると思います。



空母ジョージ・ワシントン



インド洋派遣部隊  
「ときわ」帰国9月2日



ホームページを開設しました。  
御来訪をお待ちしています。  
URL <http://k-kinoshita.jp/>

**木下けんじの経歴**

昭和25年生まれ  
夏島小、追浜中、県立横須賀高校卒業  
昭和48年防衛大卒業  
以後海上自衛隊勤務 潜水艦艦長等  
平成18年海上自衛隊定年退官

現在  
横須賀海洋少年団 顧問  
横須賀水交會 理事  
隊友会横須賀支部 相談役

**連絡先**

**木下けんじ 事務所**

〒239-0822横須賀市浦賀5-8-5-1102 TEL (FAX) : 046-841-6326  
URL <http://k-kinoshita.jp/> 携帯電話:090-5303-0828